第１学年　生活科学習指導案

日時　平成２８年６月２８日（火）　５校時

場所：１階ワークスペース　授業者：相樂　佳代

１　単元名　「きれいにさいてね」（東京書籍）

２　児童の実態

１学年の子どもたちは、外で遊んだり、自然と触れ合ったりすることが大好きで、生活科の時間を楽しみにしている。あさがおの種をまいた際には、形や色などをじっくり観察し、「まんまるじゃないよ。」「コーヒーのまめみたい。」など自分の言葉で種の様子を表現していた。毎日あさがおに水をやり、欠席の児童がいた際には、「○○さんの分も水をやっていいですか。」と友達のことも考えながら育てることができた。葉が増えてきた際には、自分たちで考え、よく話し合って間引きをするということを決めることもできた。一方で、あさがおの成長に気がついてはいるが、恥ずかしい・うまく言葉を見つけられないなどの理由で、なかなか自分なりの表現ができない児童もいる。そのような児童が、自分の気づきを表現できる方法を考えているところである。

３　ESD の視点に立った学習指導について

（１）教材について

本単元は、生活科の内容構成の具体的な視点の「キ　身近な自然との触れ合い」に属する学習である。植物を栽培する活動を通して、成長や変化の様子に関心をもち、それらは生命をもっていることに気付いたり、親しみをもって大切に育てることができるようにすることを目指す単元である。

この学習は 2 年生の「野菜の栽培」、3 年生理科の「植物の成長とからだのつくり」、5 年生の「植物の発芽と成長、結実」へとつながっていくものである。

あさがおは発芽率が高く、栽培しやすい植物であることから継続して栽培をしていくことを決めた。あさがおの成長には、「水やり」「追肥」「支柱立て」「草むしり」などいろいろな世話が必要である。これらを、児童の気付きの言葉を取り上げながら、自分たちで見つけていくことができるようにする。児童は毎日あさがおを観察しながら、いろいろなつぶやきを発している。そのつぶやきを取り上げ、みんなで共有することによって、「天候などに応じた適度な水やりが必要である」ことや、「肥料をやるとより元気に大きく育っていく」ことなどを学習していく。もし、あさがおがぐったりしているような場合にも、どうしてそうなったのか、何をしてあげればよいのかを自分たちで考えさせる。そしてあさがおが生きていることを実感としてとらえられるようにする。その際、この時期の児童の特性から、あさがおの気持ちを考えさせる活動を行う。そうすることで、あさがおの栽培を自分のものとしてとらえ、親しみをもって大切に育てることができるようになると考える。

（２）持続可能な社会づくりとの関連

日常生活の中で自然や生命と触れ合い、かかわりあう機会が乏しくなっている現状を踏まえ、植物を育てることは、植物の日々の成長や変化、実りが子どもたちに生命の営みを実感させるものである。継続的に世話をし、繰り返し関わる過程で、「もっと元気に育ってほしい。」「もっと上手に育てたい。」という願いをもつようになり、その願いを実現させるために、生育環境や水、日照、肥料といった植物の育成条件に目をむけるようになる。この学習を通して、「身の回りにある植物がどのように育っていくのか。」「どのようなお世話をすればいいのか。」等関心を高め、日常生活の中に活かしていくことができるものと考える。

なお、本単元では、授業を「持続可能な社会づくりの構成概念」のうち、「Ⅰ多様性」「Ⅱ相互性」から設計することにより、ESD の視点に立った学習指導が展開できると考える。

（３）本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜多様な観点から考え・見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

・・・以前の自分のあさがおと比較することにより、成長・変化しているあさがおにどんな世話をしたらよいのかを考える力

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

・・・自分だけでなく、友達のあさがおのことも見たり考えたりしながら、みんなでより良く育てたり表現したりする方法を考え、実践していこうとする力

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

① スケッチだけでなく写真でも記録していくことにより、前回のあさがおとの成長の様子を比べ、今後のあさがおの成長や変化を予想することができるようにする。

② 観察して気づいたことを観点ごとにまとめていくことで、より詳しく自分のあさがおを観察したり友達と気づきを共有したりすることができるようにする。

③ 「あさがおからの手紙」やあさがおの気持ちを考える活動など、児童が自分のあさがおを大切に育てようとする気持ちを養う工夫を行う。

４　単元の目標

植物を栽培する活動を通して、成長や変化の様子に関心をもち、それらは生命をもっていることに気付き、親しみをもって大切に育てることができるようにする。

5　指導計画と評価規準（総時数８時間）

次	時	活　動　内　容	関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
1	1 2	育ててみたい植物を選び、種や鉢を準備する。 植物への成長の願いをもって種をまく。	身近な植物に関心をもって関わろうとしている。	育ててみたい植物を選んだり決めたしている。	
2	3	発芽の様子を観察し、記録カードに書く。	変化や成長の様子に関心をもって、繰り返し関わり世話をしようとしている。		毎日水をやることで芽が出たり、成長したりすることに気付いている。 ＜多様な観点と見通し＞
	4 本 時	あさがおの成長の様子に合わせて、世話の仕方を工夫する。		あさがおの変化や成長について考え、あさがおの立場に立って世話の仕方を考えている。 ＜交流と協力＞	あさがおの成長に関心を持ち、進んで自分の気づきを話すことができる。 ＜多様な観点と見通し＞
3	5 6	開花の喜びを絵や文で表現し、友達や家の人に伝える。あさがおの花で造形作品をつくる。	あさがおに親しみをもち、大切にしながら作品をつくろうとしている。		あさがおは生命をもっていることや成長していることに気付いている。 ＜多様な観点と見通し＞
4	7 8	あさがおの成長の様子や自分の世話を振り返り、あさがおが成長した喜びを表現する。		育ててきたあさがおとの関わりを振り返り、自分なりの方法で表している。 ＜多様な観点と見通し＞	あさがおへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。 ＜交流と協力＞

6　ねらい＜第４時＞

継続的にあさがおの世話をしたり観察したりすることを通して、植物の変化や成長の様子に気づくとともに、適切に世話を続けることができるようにする。

7　指導過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点＊ESD の視点に立った留意点・評価＜ESD で重視する能力・態度＞
導入	1　6月初めの頃のあさがおとどこが変わったのかを話し合い、本時のめあてをつかむ。 ・葉が大きくなってきたよ。数も増えてきた。 ・初めの葉の形といっぱい増えてきた葉の形が違う。 ・くきが長くなってきた。 ・くきがくるんとしている。 あさがおをもっとげんきにそだてるさくせんをたてよう。	１０	○実際に自分のあさがおを目の前に置き、あさがおの成長を実感できるようにする。 **＊６月上旬の自分のあさがおの写真と見比べながら観察させることにより、以前とは変化したということを児童に気付かせるようにする。　＜多様な観点と見通し＞** **＊教師のあさがおは児童より２週間遅く植えたので、様子を比べさせ変化に気付きやすくする。　＜多様な観点と見通し＞**
活動	2　あさがおがこれからどんなふうに成長していくか予想する。 ・もっと上にのびていく。 ・くるくるまるまってくる。 3　あさがおの気持ちを話し合い、どんなお世話ができるか考える。 ・気持ちがいいな、いつも水やりありがとう。 ・まびきをして広くなったよ。 ・このままだとともだちのとからまっちゃうよ。 →ぼうをたてようか。隣の２年生の鉢は前から立てているよ。 ・ともだちのと比べてげんきがない→おなかがすいたのかな？肥料をあげよう。植える時にもあげたよ。 1ねんせいのみんなへ。 いつもあさみずやりをしてくれてありがとう。 このまえはまびきをしてくれたね。ばしょがひろくなったから、のびのびすごせるようになったよ。 でもさいきん・・・ つるがどんどんのびて、となりのあさがおとからまりそうになってきたんだ。それになんだかげんきがでない。なにかいいほうほうはないかなあ。	１０ １５	○この後の成長について予想したことを絵にかいたり、身体表現で表したりさせる。 ○絵を早く書き終わった児童には、近くの友達と見せ合いながら、考えたことを話すように言葉かけをする。 **＊観察して気づいたことや予想したことをもとに、あさがおの気持ちを考えさせる。　＜交流と協力＞** ○児童から意見が出たら、実際に肥料や支柱を見せ、今後の活動への意欲を持たせる。 **＊児童からの意見が出た後で、「あさがおからの手紙」を読み、自分たちで決めた考えに納得させたり、もっといい方法はないか考えさせたりする。　＜交流と協力＞**
振り返り	3　これからどんな世話をするか、自分がやることを決め、あさがおに手紙を書く。 ・これからも水やりをしっかりするね。 ・ぼうを立ててささえてあげるよ。 ・おなかすいたね。ごはん（ひりょう）をあげるよ。	１０	・あさがおの変化や成長について考え、あさがおの立場に立って世話の仕方を考えているか。（つぶやき・発表）　＜交流と協力＞ ○板書の中から言葉を選んで手紙の文章を書けるように工夫しておく。

（３）授業研究の様子（ＥＳＤの視点に立った能力や態度を育成するための手立てに沿って）

＜導入段階「以前のあさがおとの変化を話し合い、本時のめあてをつかむ」＞

①　６月上旬の自分のあさがおの写真と見比べながら観察させることにより、以前とは変化したということを児童に気付かせるようにする。　　＜多様な観点と見通し＞

発芽したばかりの６月上旬に、一人一人のあさがおの写真をとっておいた。自分の以前のあさがおと見比べることで、どのように成長したのか具体的に観察することができるようにした。



○　自分の以前のあさがおの写真と、現在の目の前のあさがおを児童は興味を持って見比べていた。「葉が大きくなってきた」「数が増えた」などたくさんの意見が出たので、「葉」や「くき」などの観点ごとにまとめて板書をした。

●　「前よりも黄色くなった。」「少し枯れてきた。」など教師が意図していない意見も出されたが、児童が感じたことであるので、すべて認めるようにした。

②　２週間遅く植えた教師のあさがおも提示し、成長の様子を比べさせ、変化に気付きやすくする。　　＜多様な観点と見通し＞

前回の観察からどのくらい成長したのかを、写真だけでなく実物でも観察できるようにしたいと考え、教師のあさがおのみ２週間遅らせて種をまいておいた。

○　児童よりも２週間遅く植えたので、発芽してから本葉が生え始めたときの様子や、成長の違いなどを比べる際に利用してきた。

●　本時では、気温が上がってきたせいか、児童のあさがおとそれほど成長の違いがなくなっていたため、児童に見えるように置いておいたが、特に声をかけることはしなかった。



＜　展開段階「あさがおの今後の成長を予想し、どんな世話ができるかを考える」＞

現在の成長段階のあさがおの絵が描かれたワークシートを用意し、今後どのように成長していくか絵に描いて予想を立てさせた。そうすることで、今後あさがおの成長を見守っていく上で必要な世話について、より具体的に考えることができると考えた。



○　一人一人が自分の思いをもって、つるや茎が伸びていく様子を書いていた。真っ直ぐに伸びると予想する児童もいれば、家での経験からか、つるが棒に絡まっていく様子を書く児童もいた。たくさんの花が咲いている様子を書く児童も多く、早く花が咲いてほしいという思いを感じ取ることができた。

●　絵をかくのに夢中になってしまい、次の活動に進んでもかき続けている児童がいた。もう少し余裕をもって時間配分をすればよかった。

①　観察して気づいたことや予想したことをもとに、あさがおの気持ちを考えさせる。

＜交流と協力＞

１年生の児童の発達段階を考慮して、「現在のあさがおの気持ちを考えさせる活動」を取り入れた。間引きをした際にも、あさがおの気持ちを考えさせていたので無理なく進めることができると思った。また、そうすることで「棒（支柱）を立てたい」などの具体的な世話を話し合うことにつなげていきたいと考えた。





○　「すてきな花をさかせたい。」「はやく大きくなりたい。」「きれいだねっていわれたい。」など、これから育っていくあさがおについての希望を話す児童が多かった。これも教師が意図しなかった反応だが、子どもたちの成長への期待を十分に感じ取ることができた。

●　本時の段階では、あまりつるが伸びていなかったので「からまってきたから苦しい。」や、「元気がでなくなってきた。」などの、支柱立てや追肥など具体的な世話につながる意見は出なかった。しかし、児童が考えた意見なので、教師からそれらを提案することはしなかった。

②　児童からの意見が出た後で、「あさがおからの手紙」を読み、自分たちで決めた考えに納得させたり、もっといい方法はないか考えさせたりする。　＜交流と協力＞

これからどんな世話をしていったらいいか、より具体的に考えることができるようにするため、教師が用意した「あさがおからの手紙」を児童に読み聞かせた。

１ねんせいのみんなへ。
いつもあさみずやりをしてくれてありがとう。
このまえはまびきをしてくれたね。ばしょがひろくなったから、のびのびすごせるようになったよ。
でもさいきん・・・
つるがどんどんのびて、となりのあさがおとからまりそうになってきたんだ。それになんだかげんきがでない。なにかいいほうほうはないかなあ。



○　「あさがおからの手紙が届いたよ。」という言葉に、子どもたちは真剣に耳を傾けて聞いていた。「あさがおが困っている。」ということを感じ取り、何かできることはないかと一生懸命に考えていた。

●　児童の目の前のあさがおは、手紙の内容ほど成長していなかったので、これからどんな世話をするべきか、児童は悩んでしまった。児童が予想した「もっときれいな花を咲かせたい」という気持ちと、「あさがおは困っている。」という手紙の内容にずれがあった。

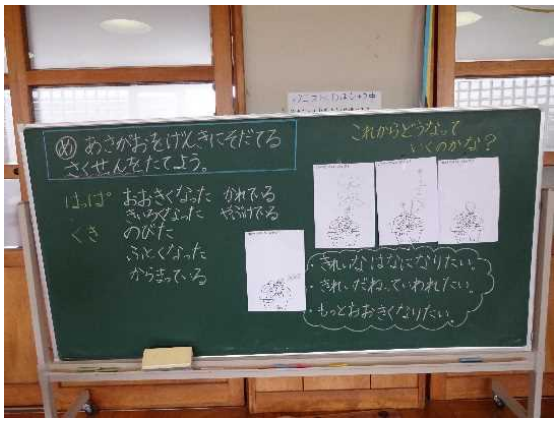
＜　終末段階「自分がこれからできることを決め、あさがおに手紙を書く」＞

○　「あさがおからの手紙」を聞いた児童は、真剣にこれからどんな世話ができるかを考えていた。「水やりをしっかりする。」「忘れないで必ずやる。」など、自分にできることを一生懸命に書いていた。自分のあさがおをこれからも大切に育てていこうとする気持ちが伝わってきた。

●　あさがおが困っているということを知り、「自分の世話が足りなかった。」と感じている児童もいた。「ごめんね、くるしませて。」など反省の言葉を書いている児童もいた。具体的な世話の方法を話し合うために「あさがおからの手紙」という手立てを考えたが、意図しない結果となってしまった。しかし、児童の「これからもあさがおを大切にしたい。」という気持ちは養うことができたと思う。

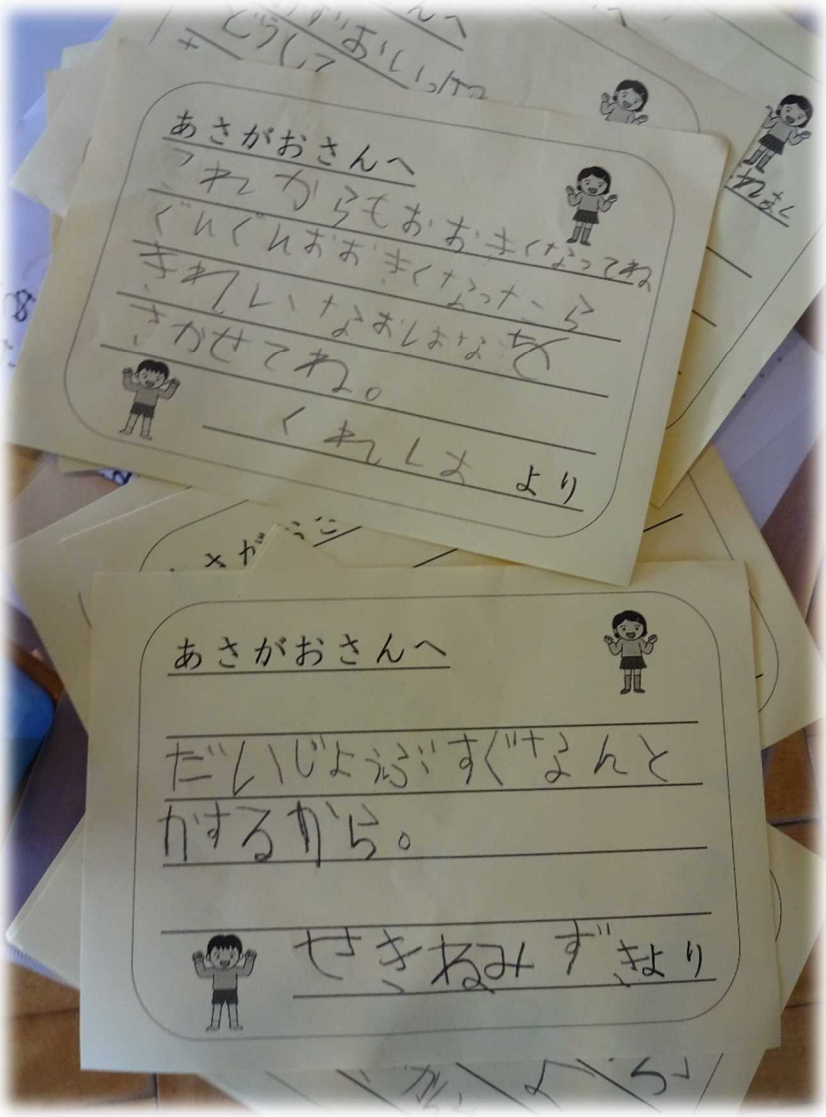


板書





児童が書いたあさがおへの手紙



＜本時の授業を通しての感想＞

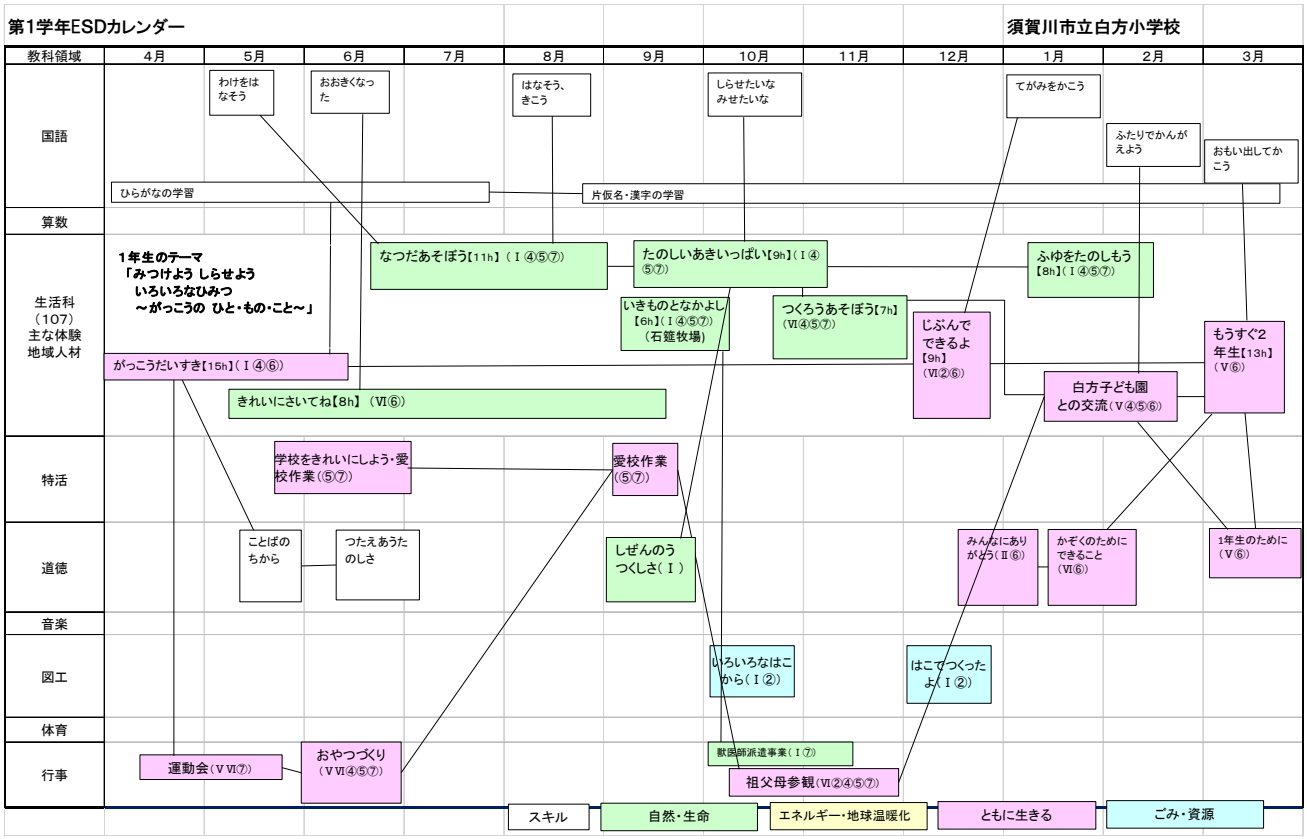
本時の授業案を考えた際には、あさがおがもう少し大きく育ち、つるも伸びていると予想していた。しかし、気温の低い日などが続いて思うように成長しないまま本時を迎えてしまった。授業の日程を変更することができなかったため、児童の思いと、教師の意図するところがずれたまま授業を進めているように感じた。

後日、気温が上がってつるが伸び、友達のあさがおと絡まるようになってくると、児童から「棒は立てないんですか？」という意見が出た。その意見を授業で紹介すると、「２年生は棒を立てているよ。」「うちではネットを張って育てているよ。」など、実に様々な意見が出た。

このように、もっとあさがおが成長した時期に本時の授業を実施すれば、より効果的な話し合いができたのではないかと感じた。

（４）今年度の実践の成果と課題

①今年度の実践を振り返って



１年生の生活科のテーマ
「みつけよう　しらせよう　いろいろなひみつ　～がっこうの　ひと・もの・こと～

４月、生活科のスタートに当たり考えたのは、子どもたちに「白方小学校にはどんな人がいるのか、どんなものがあるのか、どんなことをするのかを見たり、聞いたり、実際に体験したりさせたい」ということだった。そして、児童の気づきや発見を活かしながら授業を進めていきたいと考えた。

１学期は「がっこうだいすき」の単元で校内を自由に探検したり、先生方にインタビューしたりする活動、「きれいにさいてね」の単元では、児童の気づきを活かしたあさがおの栽培活動を行う。２学期からは「なつだあそぼう」「たのしいあきいっぱい」「ふゆをたのしもう」の単元で季節の変化に目を向け、３学期は「もうすぐ２年生」の単元で、１年を通して自分のできるようになったことを振りかえったり、発表したりするという流れで計画的に学習を進めていこうと考えた。

４月～６月　がっこうだいすき（学校たんけん・先生方へのインタビュー）

まず、校内の施設の使い方を全員で確認した。水道・トイレ・下駄箱などの使い方を説明すると、「幼稚園でもこうやって手を洗っていたよ。」と自分の意見を発表する児童がいた。上手に洗える児童に実際にやり方を見せてもらったり、靴を下駄箱にしまう練習をしたりしながら、みんなでいろいろな施設の使い方を確かめた。



次に、２年生と一緒に学校たんけんを実施した。ペアを組んで案内してもらいながら、校内で見つけたものや分かったことを絵や文字でカードに自由にかいていった。







１回目の探検で見つけたものを、階ごとに大きな模造紙にまとめた。「音楽室には大きなピアノがあったよ。」「保健室には絆創膏がおいてあった。」「校庭にはすべり台とジャングルジムがあった。」など、自分が見つけたものを自信を持って発表することができた。

友達の発表を聞いて、自分も行ってみたいと思ったところをもう一度たんけんした。「パソコン室」や「理科室」など今まで見たことのないものが置いてある部屋に興味があるようで、児童は思う存分校内をたんけんすることができた。

先生方へのインタビュー活動も行った。「教頭先生はどんなお仕事をしているんですか。」「保健室では何をするんですか。」など、自分の聞いてみたいことを考え、グループに分かれてインタビューをした。

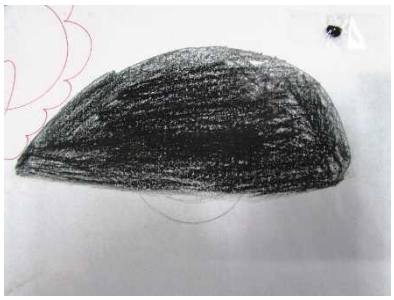




まだ文字をすべて書くことができない時期だったが、先生方の協力を得ながら全員がインタビューすることができた。緊張しながらも丁寧な言葉で話すことができ、子どもたちの自信につながった。

５月～９月　きれいにさいてね（あさがおの栽培）

５月に朝顔の種をまいた。まず、小さい種を観察すると、子どもたちは「コーヒーの豆みたい。」「まん丸じゃなくてとがっているところがある。」など、自分が気が付いたことをたくさん発表していた。よく観察して大きく種をスケッチすることもできた。



種をまいてからは、毎日水をやりながら、自分のあさがおの芽がいつ出るのか、楽しみに待っていた。少しでも変化があると、「土から緑色の頭が見えてきた。」など、そのつど報告に来てくれた。また、欠席の児童の代わりに水をやるなど優しい様子も見られた。



芽が出た様子を観察すると、「茎が赤いよ。」「毛みたいなのが生えてるよ。」「ハートの形の葉っぱの中に線がたくさんあるよ。」など、児童は実に様々なことに気が付いていた。

６月になると、葉が大きくなり、少し窮屈そうになってきた。しかし、教師からは間引きをすることは伝えず、児童の気づきを待っていた。すると、「葉っぱがぐちゃぐちゃになってきたよ。」などの声が聞かれるようになった。そこで、「どうすればあさがおは気持ちよく育っていけるかな。」と問いかけると、「鉢をもっと大きくしたい。」や、「葉っぱを切ればいい。」「それはかわいそうだよ。」など、いろいろな意見が出た。ある児童が「何本か土ごと抜いて、牛乳パックに入れて別のところに植えればいい。」という意見を出し、みんなも納得してそうすることになった。

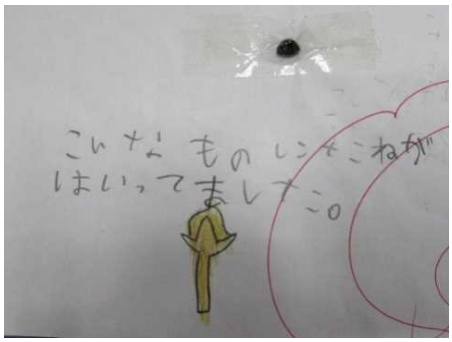
岩瀬地区授業研究会の際にも、「これから伸びていくあさがおがどうしたら気持ちよく過ごせるか。」について話し合った。その時は、間引き後で気温の低い日が多かったため、あまりつるが伸びておらず、「棒を立てたい」などの意見は出なかった。

その後、気温が高くなるにつれ、つるがどんどん伸びて、地面を這ったり隣の子のあさがおにも絡まったりするようになってきた。すると、ある児童が「先生、どうして１年生のあさがおには棒を立てないんですか。」と言ってきた。それを授業で取り上げると、他の児童からも、「家では棒を立てているよ。」とか、「うちではネットを張って育てているよ。」など様々な意見が出るようになった。みんなで話し合い、自分達のあさがおにも支柱を立てることになった。



花が咲いた時には、「つぼみがソフトクリームみたい。」「６個もさいているよ。やったあ。」などつぶやく児童がいた。

種ができると、毎日のように種取りを楽しむ様子が見られた。種は祖父母参観の際に来てくれたお客さんにプレゼントすることをみんなで話し合って決めた。また、種のプレゼントはまだたくさん残っているので、３学期に行う幼稚園との交流の際にもプレゼントしたいという意見が出された。





９月～１０月　たのしいあきいっぱい（木の実のおもちゃづくり）



秋になると、校庭で遊んでいる子どもたちは、どんぐりやまつぼっくりがたくさん落ちていることに気が付いた。「木の実や枯れ葉を使っておもちゃを作るから、たくさん集めよう。」と呼びかけた。すると、休み時間に袋に山盛りいっぱいの松ぼっくりを拾ってきたり、家族の協力を得て、休日に出かけた際に公園でどんぐりを拾ってきたり

して、たくさんの木の実が集まった。

１０月の祖父母参観でお店を開くことを伝え、「おじいちゃんやおばあちゃんに楽しんでもらいたい。」という目的をもって準備が始まった。作りたいおもちゃの種類ごとのグループに分かれて、準備を進めていった。「私たちの班では、松ぼっくりは使わないから、けん玉グループにあげるよ。」「魚釣りのお店用に、つりざおになる木の棒を集めてきたよ。」「お客さんに喜んでもらうには、もっと的に当てやすくした方がいいんじゃない。」など、グループごとに話し合い、協力しながら活動する様子が見られた。自分たちで考えて準備をし、お店を開くという経験は初めてで、うまく準備を進められなくて戸惑ってしまうグループもあったが、時間をかけてじっくりと準備を進めてきた。

当日は今までの準備の段階とは違って、おじいちゃん・おばあちゃん・家族・上級生などたくさんの人がおり、いつもと違った雰囲気で、子どもたちは緊張していた。しかし、「いらっしゃいませ～。」「こちらへどうぞ。」「こうやると上手につくれますよ。」など、お客さんが分かりやすいように声をかけたり、優しく教えてあげたりする姿が見られ、子どもたちは大満足の様子だった。

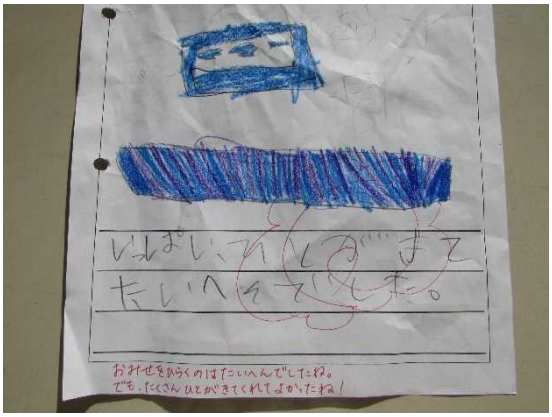




＜子どもたちの記録カードより＞









② 白方小学校のＥＳＤの視点に立った学習指導で育む能力･態度について

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

○ あさがおの栽培では、自分の育てているあさがおをよく観察したり、今後どう育っていくのか予想を立てたりしながら、自分にはどんな世話ができるのか、家では家族がどのように栽培活動を行っているのかなど、多様な観点で話し合いながら自分たちで解決策を考えていくことができた。

● 気付いたことをつぶやいたり、話したりする児童はいつも同じ児童が多かった。家庭での経験の差もあるため、自分で解決策を考えるのが難しい児童もいた。また、「気づき」を大切にする授業を行うため、教師から育て方についてあまりアドバイスをしないようにしてきたが、「追肥」など児童が気づかないことについてはやり方を説明して活動するようにした。

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

○ 「つくろうあそぼう」の単元では、グループごとに自分たちで木の実を集め、祖父母参観でお店を開くためにどんな工夫をしたらよいか話し合う活動をした。どうしたらお店に来る人に楽しんでもらえるかを話し合ったり、協力して目立つ看板を作ったり、自分の考えや思ったことを十分に交流させながら活動することができた。慣れていない活動のため時間はかかったが、協力して活動を成功させるという経験をすることができた。

● 祖父母参観の活動まではグループで行ったが、振り返りは一人一人が感じたことをカードにまとめるだけで終わってしまった。活動の振り返りについても、グループで行い、よかったことや反省点を交流できるようにすればよかった。

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

○ 「がっこうだいすき」では２年生や、先生方の協力を得ながら学校のたんけんをした。２年生が案内してくれる様子や、すらすらとカードに記入していく様子を見て、「２年生はすごい。自分もこういうふうになりたい。」という目標を持つことができた。また、先生方にもインタビューし、様々なことを教えていただいた。「きれいにさいてね」では、自分のあさがおを種から育てる活動をした。毎日忘れずに水をやることでつるがぐんぐん伸びることを知ったり、あさがおの立場に立って気持ちを考えながら育てたりすることができた。

● ２年生や先生方とは、これからも関わる機会を意図的に設け、尊敬の気持ちを持って接することができるようにしたい。また、あさがおの栽培を通して感じたことや分かったことは、２学年の「おおきくなあれわたしのやさい」でも生かしたり、家庭での栽培活動等とも関連付けたりしていけるようにしたい。

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的･計画的に取り組む態度＞

○ １年生の入門期には、学校の生活に慣れることに精いっぱいで、なかなか未来について考えながら生活することはできなかった。しかし、上級生と合同で活動したり、先生方にいろいろなことを教えてもらったりすることを通して、学校の生活にも十分慣れ、見通しを持って生活することができるようになってきた。１年生なりに、活動のめあてをもって取り組んだり、どうすればよりよく頑張れるのか具体的な方法を考えたりすることも行ってきた。

● めあてをもって学習していても、繰り返し確認しないと意識が継続せず、めあて自体を忘れてしまうこともある。３学期は、より具体的な分かりやすいめあてをたてられるようアドバイスし、定期的に振り返りをする機会を設けていきたい。